



■被災地出張授業……2014年 12月4日

高校生の今、考えておくべきこと やっておくべきこと

講師：遠藤 勝裕 学校と経営者の交流活動推進委員会 副委員長
教育改革委員会 副委員長(日本学生支援機構 理事長)

2014年12月4日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、学校と経営者の交流活動推進委員会の遠藤勝裕副委員長(元委員長)が、岩手県立釜石商工高等学校の三年生に、これからの社会を生きるために、今、考えるべきこと、やるべきこと、そして社会人の心構えなどを語った。



社会を象徴する四つの「化」に 若者はどう対応すべきか

君たちがこれからの社会を生きるためには、現在の社会における四つの「化」—「国際化」「ICT化」「温暖化」「少子・高齢化」にどう対応するかを考えることが大切です。

「国際化」への対応とは、単に語学力を高めるだけではありません。経済活動は、国の枠組みを超え、フラットな広がりを見せています。君たちがどういいう職業に就いたとしても、海外の若者が競争相手や仕事仲間になることがあるでしょう。語学力だけでなく、彼らとうまく付き合うための人間力も磨いてください。

二つ目の「ICT化」では、ITの間にある「C」、つまりコミュニケーションが重要です。ICTの進展で世界と情報を共有できる時代になりましたが、ITに頼り過ぎて、人とのコミュニケーション力が弱くなってはなりません。



地球の「温暖化」の防止に向けて、CO₂排出を抑えるためには、火力発電ばかりに頼るわけにはいきません。しかし、東北には地熱発電などの自然エネルギーが豊富にあります。私たちは、ぜひこれを活用していかなければなりません。

「少子・高齢化」の流れの中では、これまで大人たちが培った豊かな財産を少ない若者で分け合うことになります。しかし、それを当てにはしないでください。また、少子化だから競争相手が少なく安心だ、勉強しなくても大学に入ると油断をしていると、将来、世界中から日本を目指す若者たちに、仕事を奪われてしまうでしょう。

学校で身に付けた基礎学力を基に 思考し決断する力を伸ばす

企業が若者に求める能力とは何でしょう。大前提として、基礎学力は必要です。どこの学校を出たかよりも、何を学んできたかを企業は重視しています。基礎学力を基にして、常に疑問を持って学び続ける意欲や熱意、思考し決断する力や善悪を判断する力を伸ばすことが、社会では重要となります。

また、学校での勉強以外でぜひ身に付けてほしいのは、異文化への理解、そして日本文化の理解です。自分の経験からも、海外に行くとインフォーマル

な場での話力が重要になります。日本文化をよく勉強し理解しておく、そうした場での会話がはずみ、商談がスムーズに進行したりするものです。

サラリーマン生活で学んだ 社会人としての六つの心構え

最後に、私が今までに学んだ社会人としての心構えを、六つお話します。

一つは、「上に頼るな」ということです。仕事でも災害時でも、誰かが何とかしてくれるのを待つのではなく、まず自分で考え、行動する必要があります。次に、「傍観者にならない」こと。「みこしは皆で担げば軽くなる」ということです。仕事でも災害時でも重要なことでしょう。三番目は、「宝を活かせ」。地域も人も宝の山です。自分の中にも地元にも、光る宝を見つけてください。四番目は、社会に出るといろいろと要求されますが、まずは「YES」と答えましょう。役立つ人材とは、必ず「YES」から出発し、あらゆる障害を乗り越えるために、知恵を絞ることのできる人間です。五番目は、「論より行動せよ」。ビジネスの場では議論も多いのですが、何よりも行動することが大切です。最後は、「よそ者の知恵」です。震災復興など、時にはよそ者の方が解決策を見つけてくれることもあります。時に「よそ者」として力を発揮してください。

生徒との質疑応答

Q 日本の文化について、具体的に何を学ばよいですか？

A 文化は言い換えると教養ともいえます。文化教養を身に付けるためには、多くの人の考えを学ぶことです。一番良いのは、できるだけたくさんのお本を読むことです。私が海外で仕事をしているときは、能や茶道や歴史について、よく聞かれました。経験することも大切ですが、よりたくさんのお本を読むためには、ぜひ、多くの書物を読み、幅広い教養を身に付けて

ください。

Q 現在の社会状況として、温暖化や少子・高齢化など、暗い話題が多いのですが、明るい兆しはありますか？

A 先ほどは、暗いというより、皆さんが世の中に出たときに直面する、大変な問題についてお話ししました。世の中、苦勞なく生きていければよいのですが、そうでない部分が多い、ということをお伝えしたからです。しかし、例えば暗い話題といわれる温暖化の問題についても、明るい兆しは、この東北にはあります。東北には自然エネルギーが豊富にあつて、もしその資源をすべて活かすことができれば、従来の火力発電や原子力発電を補う力にもなり得るからです。東北が持つ潜在的な資源の力を活かして、東北を復興させ

ることこそが、日本社会を救うことにつながるのではないかと私は考えています。

Q 少子・高齢化対策として消費税の話がありましたが、8%になっただけでも経済状況が悪くなるのに、今後消費税が10%になっても大丈夫ですか？

A このままだと将来必要なお金で、今の税制度では賄えないということで、消費税が導入されました。もし今後も借金が増え続ければ、世界中で日本は信用を失うことになり、国民全体が路頭に迷ってしまう事態にもなりかねません。現在の国の借金を抑制するために、「国民一人ひとりが負担をする」というものが消費税の基本的な考え方です。引き上げる前に景気対策をすべきという考え方もありますが、いずれにせよ消費税を引き上げるだけでなく、経済的な政策、日本の成長戦略も同時に進めていくことが大切でしょう。



生徒の感想

●これからの世の中を生きるために必要な四つの「化」を身に付けていきたいと思いました。日本には、エネルギーや少子・高齢化問題などのさまざまな課題があるとあらためて分かりました。

世界に信頼される日本になるために、これらの課題の傍観者にならず、全員で参加して課題を解決していきたいと思いました。

●卒業後、就職するに当たって、特に大切だと思ったのは、熱意・意欲を持つこと、人に頼るだけでなく自分で考え行動すること、コミュニケーションをしっかりと取れるようになることだと思いました。今日学んだことをこれから活かしていけるように、小さなことからでも、今のうちから行動に移していきたいです。

●少子・高齢化がいろいろな問題につながっていることが分かりました。人に頼らず自分のすべきことをしっかりとできるような人になり、社会に貢献したいです。また、私は将来、地元に戻るつもりです。そのときは地元のためにできることをしっかりとやりたいです。

●今日の講演を聴いて、社会に出て何が求められるか、何が必要なのかということを知りました。日本の文化や社会にもっと興味を持ったり、自分から行動を起こしたりしてみたいと思います。社会人の心構えとしての「傍観者にならない」という言葉が、自分自身を見直すきっかけになりました。

●社会人として働くことで、さまざまなことを若い世代の人たちが担っていくという大切な役割を果たすと思います。そのために、高校生の今、基礎を学び身に付けることは、とても大切なことだとあらためて考えました。私は普段読書をしていないので、これからは読書の時間を増やして、多くの本を読んでいきたいです。

●「YESからの出発」という言葉が一番心に残りました。自分から可能性を狭めてしまつては、何も始まらないと思うので、自信を持って行動していきたいと思いました。

●高校生活や今まで学んできたことは社会人としても役に立つので、しっかりと活かしていきたい。「NO」からは何も生まれてこないで、何事も「YES」から出発できるように、意識しながら頑張っていきたいです。